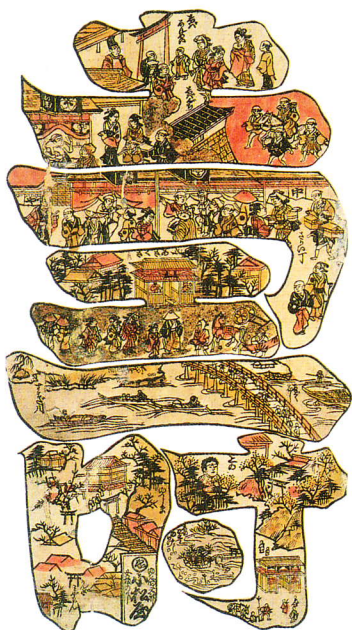


開館15周年記念特別展



文字模様小袖屏風 国立歴史民俗博物館蔵

羽川沖信筆 寿の字内江戸名所 東京国立博物館蔵



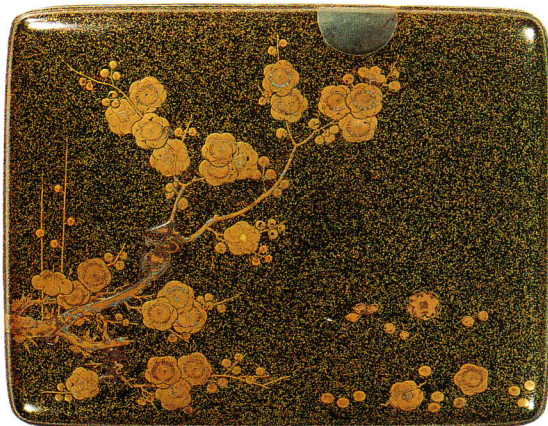
1996年10月15日(火) → 11月24日(日)



歌川国貞筆 金なる木繁栄 図 個人蔵



平の建舞 個人蔵



梅月時絵手箱 東京国立博物館蔵

渋谷区立松濤美術館

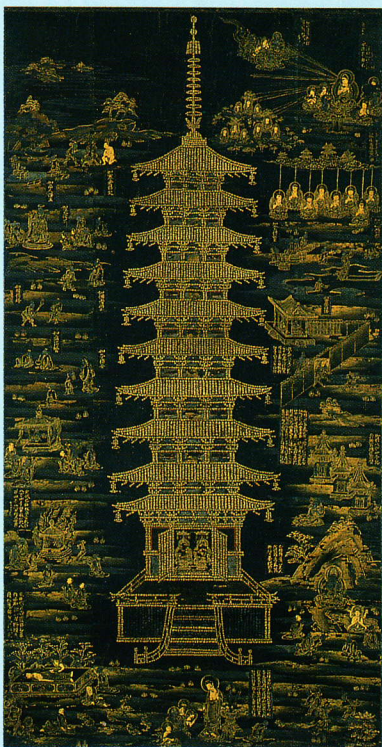
東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL.03(3465)9421



加藤信清筆 弁財天図(部分) 個人蔵



同左部分拡大図



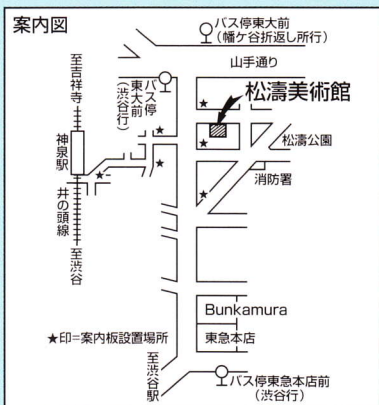
金宇宝塔曼陀羅 妙法寺蔵



木喰筆 六字名号 個人蔵

ことばが
詞書きを伴う絵巻物や賛と呼ばれる詩文が寄せ書きされた詩画軸をはじめ、教養ある文人が自らの絵に書を加えた自画自賛のものなど、明治以前の我が国の絵画には画中に文字を書き入れる作例が多数見受けられ、文字と絵は古来より親しい関係にありました。中でも文字的な要素を含んだ絵画表現としては、微細に書き込まれた經典の文字を連ねることによって輪郭線や形象を描きだす宗教的な作例や、画面の中に文字を隠し込んだもの(あしでえ 葦手絵他)があり、本展ではこれらの文字が積極的に関わった絵画作例を文字絵という言葉でまとめてみました。一方、太書きの文字の輪郭の中に絵を描き込むなどして文字を絵画的手法で飾るものや、絵を表音文字のように用いて意味を伝える判じ物なども知られており、これらは広く絵文字としてとらえることができるでしょう。

このような文字と絵の親密な関係は、西洋絵画にはない日本(東洋)美術の大きな特徴です。この展覧会では国宝・重文を含む130点あまりを展示して(会期中展示替えをいたします)、このような日本(東洋)美術における文字と絵の関わりについて、新たな光をあててみたいと考えます。



渋谷駅下車徒歩15分 神泉駅下車徒歩5分

講演会

- 11月2日(土)午後2時～ 「工芸作品に見る文字意匠」
小松大秀(東京国立博物館漆工室長)
- 11月9日(土)午後2時～ 「絵が文字になり文字が絵になる…」
杉浦康平(デザイナー)

映画会

- 10月26日(土)午後2時～3時 京都の魅力 美のすべて「桂離宮」「修学院離宮」
- 11月23日(土)午後2時～3時 京都の魅力 美のすべて「茶の湯」「生け花」

美術相談

- 10月19日(土)午後2時～4時 磯村敏之(洋画)・北尾和子(水彩画)
- 11月16日(土)午後2時～4時 西嶋俊親(洋画)・松島靖(水彩画)

■休館日 10月21日(月)・28日(月)・11月5日(火)・10日(日)・11日(月)・18日(月)

■開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■入館料 一般200(160)円／小・中学生100(80)円*()内は20名以上の団体料金